

企業ヒアリング調査概要

この調査は、平成 27 年 5 月～6 月に実施した人材育成ニーズ調査における企業調査（以下、「委託調査」という。）のアンケート項目を参考に、関係する項目を工科短大・技専校が抽出して実施した。

- ・結果は委託調査と概ね同じであったが、委託調査評価の高低が一層強調される傾向を示した。
- ・今後取り組むべき訓練について、「2 年程度の訓練」の評価が高く、「1 年程度の訓練」とほぼ同数であった。

I 事業所における採用・人材育成等の状況

採用時に、技術系・技能系社員に求めるもの（採用時に重視する点）

- ・「会社や仕事に対する熱意・意欲」の割合が最も高く、委託調査よりも約 20 ポイント高い。具体例としては、「この仕事が好きか」等が挙げられた。
- ・「専門的な技術・技能・知識」は 1 割強で、委託調査の半分以下。「入社後の習得で十分」、「技能・技術は入ってからでよい」とする企業も多い。

II 長野県工科短期大学校・長野県技術専門校

1 長野県工科短期大学校について

(1) 長野県工科短期大学校（上田市）

- ・委託調査よりも知名度は高く、「どのような教育訓練を行っているか知っている」が約 3 割と委託調査より約 20 ポイント高い。しかし、「知らない」も約 3 割ある。
- ・採用した卒業生に対しては、「大変満足」が 5 割を超えているほか、「やや満足」も合わせ「満足」とした事業所は 8 割に達し、委託調査よりも 10 ポイント高い。
- ・卒業生について評価できることは、「基礎的な技術・技能・知識」が約 9 割で、委託調査より 10 ポイント以上高い。具体的には、「初歩から教育しなくてよい」、「吸収が早い」等が挙げられている。
- ・卒業生について不足していると思われることは、「自分で考え実行する応用力」が約 5 割で、委託調査より 10 ポイント以上高い。

(2) 長野県南信工科短期大学校（上伊那郡南箕輪村）

- ・「内容をよく知っている」が約 1 割、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」が約 3 割で、ともに委託調査より大きく増加しているが、約 5 割は「知らない」と回答。

(3) 長野県工科短期大学校全体

- ・今後、積極的に取り組んでほしいことは、「基礎的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」、「専門的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」及び「企業等へのインターンシップ」が多く、委託調査と同様であるが、いずれも 10 ポイント以上高い。
- ・卒業生には将来的に「現場のリーダー」「管理監督者」「プロジェクトリーダー」等になってほしいという期待が多い。
- ・南信工短については、「官民連携を期待したい」、「地元の企業と交流を深め地元就職するようになってほしい」等、地域との連携について期待されている。

2 長野県技術専門校について

- ・「どのような教育訓練を行っているか知っている」が約 8 割で、知名度は高い。
- ・採用した修了生に対しては、「大変満足」、「やや満足」と回答した事業所が約 6 割で、委託調査よりも 10 ポイント以上高い。

- ・ 修了生について評価できることは、委託調査と同様「基礎的な技術・技能・知識」が群を抜いている。具体的には、「機械操作の基礎を知っているので一から教える必要がない」、「電気工事士や技能講習など業務に必要な資格を習得している」等が挙げられている。
- ・ 修了生について不足していると思われることは、「自分で考え実行する応用力」が約6割で、委託調査より10ポイント以上高い。また、「もっと挨拶やマナーができてると良い」、「コミュニケーションが苦手な傾向がある」等の意見もあった。
- ・ 今後、積極的に取り組んでほしいことは、「基礎的な技能を身につける1年程度の職業訓練の充実」と「応用的な技能を身につける2年程度の職業訓練の充実」がそれぞれ約4割と、委託調査と比較して高く評価されている。また、「企業等へのインターンシップ」が約2割で、委託調査より約10ポイント高い。
- ・ 修了生は「現場の作業員」、「中堅技能者」、「(将来的には)現場管理」等の役割を期待されている。

IV 技能尊重気運の醸成

技能が尊重される社会を実現するために（必要となる取組）

- ・ 「小中学生が熟練技能者から学ぶ（体験する）機会を増やす」が約4割で最も高く、委託調査よりも10ポイント以上高い。
- ・ 実際に小中学生、高校生の体験講座、インターンシップ、企業見学などを受け入れていると答えた企業は20社程度。「対応できるマンパワーがない」、「見学は可能だが、体験については危険を伴う職種なので難しい」等の負担感を挙げる企業もあった。

在校生調査概要

※この調査は、平成27年7月時点の工科短大・技専校在校生を対象に実施した。

- ・結果は工科短大・技専校いずれも満足度が高かった。
- ・「重点を置くべきこと」について、工科短大は最先端技術、技専校は資格取得であった。

1 工科短大・技専校に入学する以前の状況について

- ・工科短大については、ほぼ全員が「在学していた」。
- ・技専校については、「在学していた」と「働いていた」が概ね半分ずつ。

2 職業訓練について

(1) 入校した主な理由

- ・工科短大については、「就業」が約9割。
- ・技専校については、「就業」が約7割、「資格」が約2割。

(2) 学科（訓練科）に対して満足していること

- ・工科短大については、「満足」、「ほぼ満足」が約7割。具体的には、「実習が多く、学科に絡んでいること」、「少人数学級のため、授業で理解できなかったところをこまめに訊きに行けるから」等の意見があった。
- ・技専校については、「満足」、「ほぼ満足」が約8割。具体的には、「幅広い技術・技能・知識の取得のための訓練ができており、様々な資格の取得にもつながっているので満足」、「わかりやすく教えてくれたり、作業のときにアドバイスをくれたりするので満足」等の意見があった。

(3) 学科（訓練科）に対して不満に感じていること

- ・工科短大については、「授業密度・忙しさ」が約4割で最も高い。具体的には、「授業のペースが速い」、「課題の多さ」等の意見があった。
- ・技専校については、「訓練内容・カリキュラム」が約3割で最も高い。具体的には、「学科の方針で取得する資格に実際の業務で必要のないものが多い」、「もう少し応用的な内容も習いたい」等の意見があった。

(4) 訓練期間（時間）

- ・工科短大・技専校ともに「適当」が約8割。
- ・訓練期間が「長い」または「短い」と回答した在校生が適当と思う期間は、工科短大については「4年」、技専校については「2年」が最多。

(5) 学科（訓練科）の教科の内容

- ・工科短大の学科については、「難しい」が4割強、「適当」が約5割。実技については、「難しい」が約3割、「適当」が約7割。
- ・技専校の学科については、「難しい」が約3割、「適当」が約6割。実技については、「難しい」が約2割、「適当」が約7割。

(6) 卒業（修了）後の就職先を選ぶ理由

- ・工科短大については、「労働環境」と「安定」をそれぞれ約5割の学生が求めており、「能力を活かす」が約3割と続く。
- ・技専校については、「やりがい」と「労働環境」をそれぞれ約4割の訓練生が求めており、「安定」が3割と続く。

(7) 工科短大・技専校で重点を置くべきこと

- ・重点を置くべき項目について「そう思う」との回答が最も多かったのは、工科短大・技専校いずれも「専門的技術」という回答であったが、2番目に多かったのは、工科短大は「最先端技術」、技専校は「資格取得」であった。